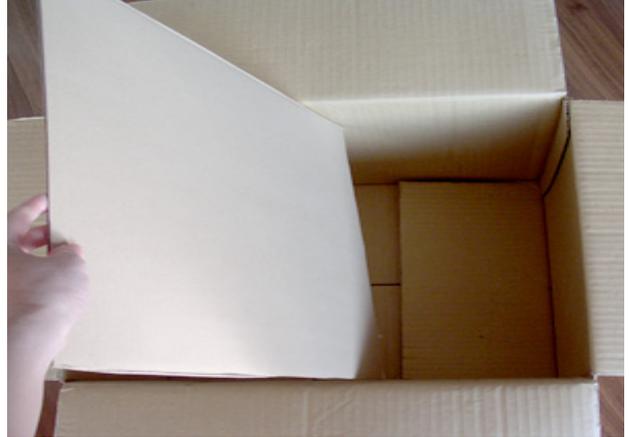


# 段ボールコンポストマニュアル

## 1 準備

- ① 段ボール箱の底と四隅をクラフトテープでとめ、底の補強をするために底板を敷きます。



- ② 基材（椰子の実チップともみ殻くん炭）を入れよくかき混ぜます。



※かき混ぜるスコップなどは角が丸いものがおすすめです。しゃもじなどで代用可能です。

## 2 生ごみ投入

生ごみ（目安 500 g～1 kg/日）を入れ、よくかき混ぜます。

(注1) 生ごみは、ある程度水を切って投入します。  
また、小さく刻んで投入すると分解が早くなります。

(注2) 基材を手で握って形が残る程度の水分が必要です。基材が乾燥した場合、米のとぎ汁や味噌汁など水分を加えます。

(注3) 冬期など低温になると微生物の働きが鈍く、分解が進まないかもしれません。

魚のアラ、米ぬか、油脂などカロリーの高いものを投入すると温度が上がります。

(注4) 卵の殻、肉の骨、貝殻、玉ねぎの皮などは分解されません。



### 3 管理

- ① 1週間に1回程、箱の中を十分にかき混ぜます。  
生ごみを入れてかき混ぜると、基材の温度が上昇し（30～40℃程）、分解が始まります。

（注1）野菜類が多い場合はあまり温度が上昇せず、ゆっくりと分解が進みます。



- ② 混ぜ終わったら、虫が入らないように「虫除けキャップ」を被せます。  
「虫除けキャップ」をしていても、虫が発生することもあります。

- ③ 風通しが良く、雨が当たらない場所に設置します。直接地面に置くと底が湿気でぬけてしまうため、網目の台などに乗せましょう。  
育苗ポット箱やビールケースなどがおすすめです。



### 4 堆肥の作り方

- ① 最初の生ごみ投入から2～3か月程過ぎ、次のような状態になったら生ごみの投入を中断し、箱の中で1か月程、熟成させましょう。  
基材が乾燥したら堆肥の出来上がりです。

- ・中身が黒っぽくなる。
- ・基材がべたついた状態になる。
- ・生ごみを投入しても温度が上がらない。
- ・分解が遅い。

（注1）投入した生ごみに未分解が多い場合は、週1回程度水分（手で握り水が出ないで、崩れるぐらいの状態）を加えて混ぜ合わせます。



出来た堆肥を家庭菜園や花壇などで使用し、生ごみを減らしましょう。